



Amazon CodeCatalyst

Spaces 編

柳久保 友貴

Solutions Architect 2023/12

自己紹介

名前:柳久保 友貴

所属:アマゾンウェブサービスジャパン合同会社

ISV/SaaS ソリューションアーキテクト

経歴: Web 系の会社で、主にバックエンド開発/インフラ設計

好きな AWS サービス: Amazon Code シリーズ





AWS Black Belt Online Seminar とは

- 「サービス別」「ソリューション別」「業種別」などのテーマに分け、 アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社が提供するオンラインセミナー シリーズです
- AWS の技術担当者が、 AWS の各サービスやソリューションについてテーマ ごとに動画を公開します
- 以下の URL より、過去のセミナー含めた資料などをダウンロードすることが できます
 - https://aws.amazon.com/jp/aws-jp-introduction/aws-jp-webinar-service-cut/
 - https://www.youtube.com/playlist?list=PLzWGOASvSx6FIwIC2X1nObr1KcMCBBlqY
- X ご感想は X (Twitter) へ!ハッシュタグは以下をご利用ください #awsblackbelt

内容についての注意点

- 本資料では資料作成時点のサービス内容および価格についてご説明しています。
 AWS のサービスは常にアップデートを続けているため、最新の情報は AWS 公式ウェブサイト (https://aws.amazon.com/) にてご確認ください
- 資料作成には十分注意しておりますが、資料内の価格と AWS 公式ウェブサイト記載 の価格に相違があった場合、AWS 公式ウェブサイトの価格を優先とさせていただき ます
- 価格は税抜表記となっています。日本居住者のお客様には別途消費税をご請求させていただきます
- 技術的な内容に関しましては、有料の <u>AWS サポート窓口</u>へお問い合わせください
- 料金面でのお問い合わせに関しましては、カスタマーサポート窓口へ お問い合わせください(マネジメントコンソールへのログインが必要です)

Black Belt Amazon CodeCatalyst シリーズ 🔘



Overview 編

Spaces 編

Projects, Blueprints 編

Source repositories 編

Dev Environments 編

Workflow 編

Issues 編

Identity, permissions, and access 編

Extensions 編

シリーズ構成

- 全体像をお伝えする Overview 編
- 各機能の詳細についてお伝えする各機能編

Black Belt CodeCatalyst シリーズの対象読者

チーム開発をするすべてのアプリケーション開発者

Space 編の対象読者

- Space の全体像を把握されたい方
- AWS アカウントの管理者



アジェンダ

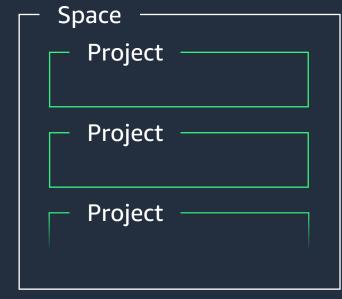
- 1. Space の概要
- 2. Space の作成手順
- 3. メンバー管理
- 4. AWS アカウント/IAM ロールの管理
- 5. クォータ

Space の概要



Space の概要

- 部署、グループ、会社などの組織を表現する概念
- リソース(Project, Extension, AWS Account Connection, VPC Connection)とメンバーを管理する
- 1 つ以上の AWS アカウントと紐づける
 - Project から AWS アカウント上のリソースを利用可能にする
 - 料金の請求先や Space の管理イベントのログ出力先になる



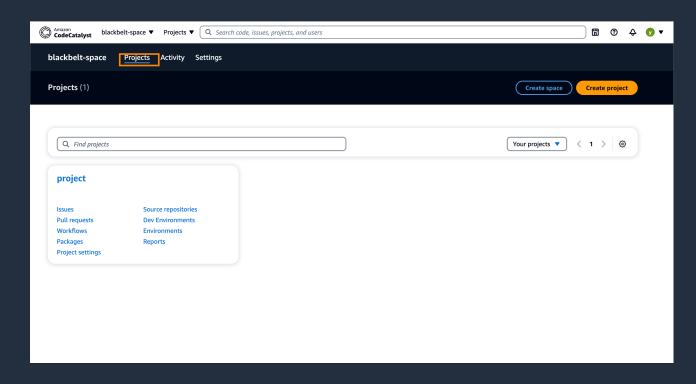
Space と Project は 1:n の関係

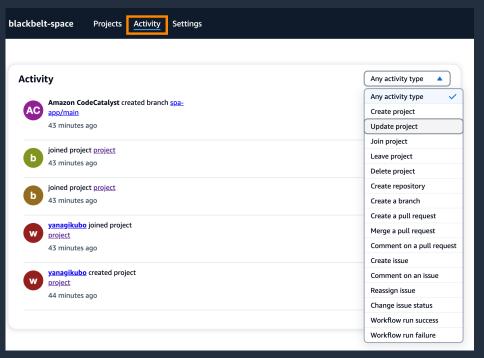
※Project の詳細については Black Belt Amazon Codecatalyst シリーズ Projects, Blueprints 編参照



Space 内でできること(1/2)

- Space の表示、作成、編集、削除
- Project の作成、表示
- Space 内のアクティビティの表示、フィルタリング

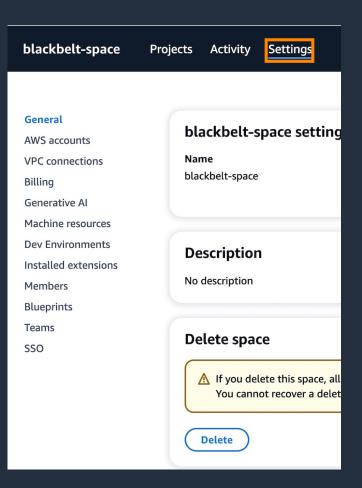






Space 内でできること (2/2)

- Space 内の各種設定の管理
 - AWS accounts -> P23 \sim
 - VPC connections -> Identity, permissions, and access 編参照
 - Billing -> P29 \sim
 - Generative AI -> Issue 編参照
 - Machine resources
 - Dev Environments -> Dev Environments 編参照
 - Installed extensions -> Extension 編参照
 - Members -> p16 \sim
 - Blueprints -> Projects, Blueprints 編参照
 - Teams -> Identity, permissions, and access 編参照
 - SSO -> Identity, permissions, and access 編参照



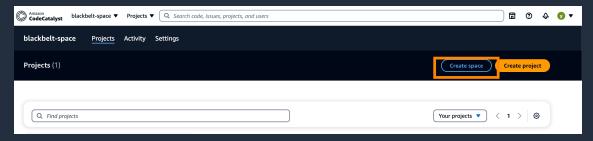


Space の作成手順



Space の作成方法

- CodeCatalyst の Space を作成する方法は 3 種類ある
- ①CodeCatalyst にサインイン時に作成(どのSpace にも所属していない場合)
 - CodeCatalyst Workshop を参照
 - https://catalog.workshops.aws/integrated-devops/ja-JP/workshop/onboarding
- ②ID Federation 設定する時に作成
 - Identity, permissions, and access 編参照
- ③CodeCatalyst のサインイン後に作成(後述)

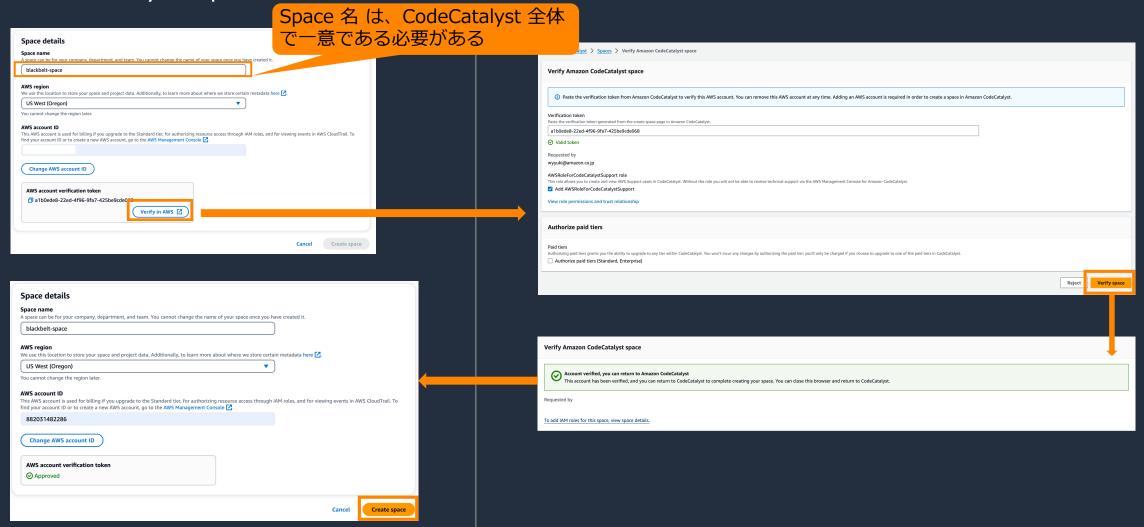




Space の作成(1/2)

CodeCatalyst Space

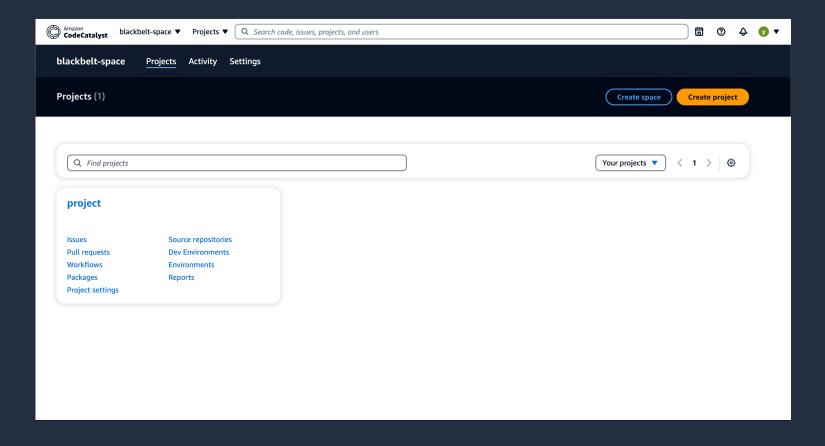
AWS アカウントの マネジメントコンソール





Space の作成(2/2)

Space 作成後、作成した ユーザーは自動で Space Administrator Role(後述)が割り当てられる

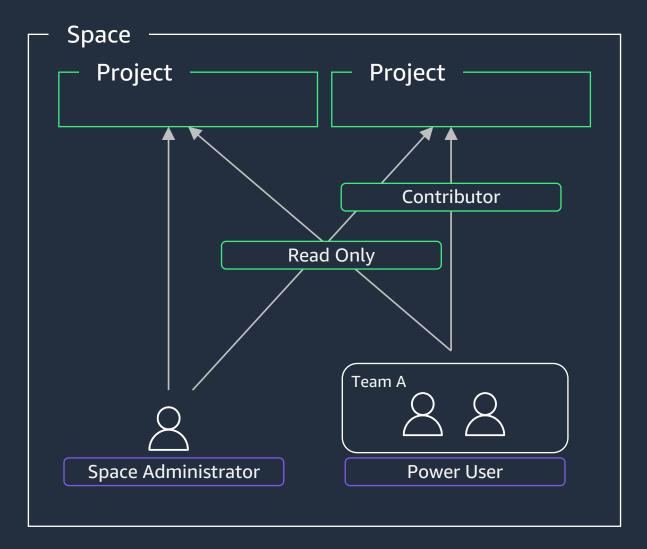




メンバー管理



Space メンバーについて



- Team, ユーザーごとに Space レベル、Project レベルで Role を付与し、 権限を管理する
- Space レベルの Role
 - Space Administrator
 - Power User
 - Limited Access

※ Team の詳細については Black Belt Amazon Codecatalyst シリーズ Identity, permissions, and access 編参照



Space Role

Role	Description
Space Administrator	 CodeCatalyst で最も強力な権限をもつ Role Space 全体に対するすべての権限をもつ Space Administrator Role に User を追加/削除できる唯一の Role
Power User	 Space のユーザーやリソースの管理を支援する User 向けの Role Project の作成はできるが、Project 内のリソースに 対するアクセスはできない
Limited Access	 Space リソースの管理を行なう必要がない User にはこの Role を付与する Spaceリソースに対する権限はほとんど持たない 特定の Project 内から招待された User は、Spaceレベルではデフォルトでこの Role が付与される

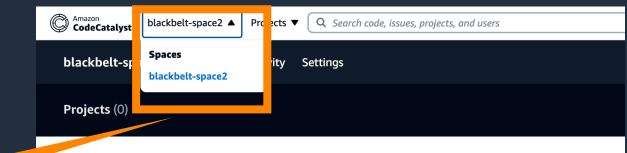


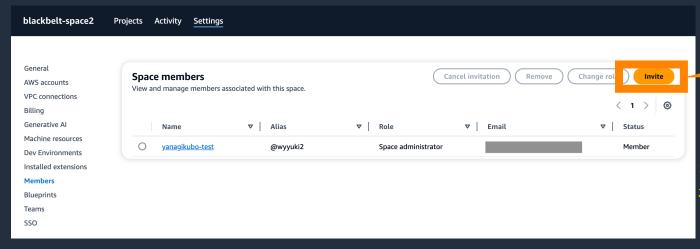
メンバー 招待の手順 (1/2)

※ 本手順は Builder ID User をサポートする Space における手順となっています。IAM Identity Center を用いた ID フェデレーションをサポートする Space における手順とは多少異なります。

https://docs.aws.amazon.com/ja_jp/codecatalyst/latest/userguide/setting-up-topnode.html

①Space 一覧画面にて、メンバーを招待 したい Space を選択





②Settings Members 画面にある "invite"を選択

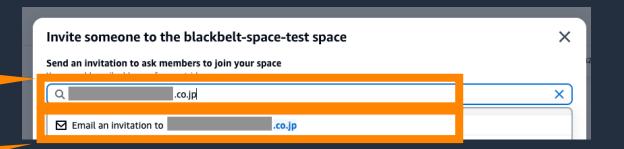
※ ユーザを招待するメンバーは、Space ヘユーザ を招待するための権限を持つ Role が必要

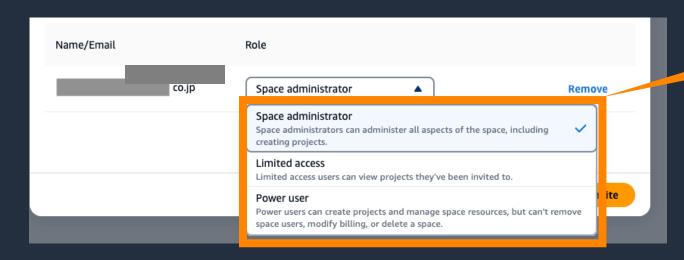


メンバー 招待の手順 (2/2)

①「Send an invitation〜」下にある入 力欄に、招待したいメンバーの Email ア ドレスを入力

②「Email an invitation to ~」とメッセージが出てくるので、選択







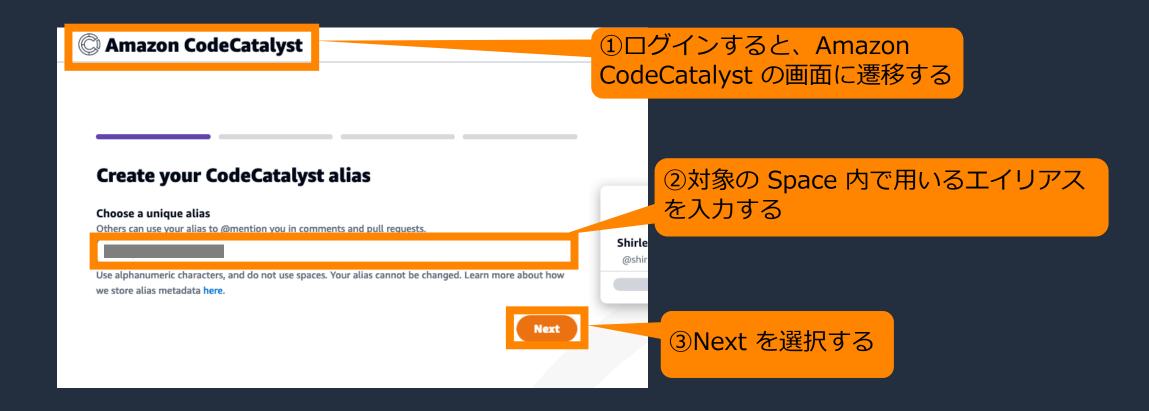


メンバー 招待の受け入れ手順 (1/2)

You've been invited to join Modern-horiry-app on Ai ①招待を受け取ったユーザは、招待メー Create AWS Builder ID CodeCatalyst. ルの Accept Invitation を選択する AWS Builder ID is a new personal profile for .co.jp to join the project Mode Hi, you've been invited by builders. Learn more app on Amazon CodeCatalyst. Get started for free Complement your existing AWS accounts **Accept invitation** Secure your login with optional MFA Log in or sign up with the following email address to accept this invitation: Your email address ②Builder ID の作成を求められるので We recommend using your personal email address. Invitations expire after .co.jp 、サインアップし、ログインする Next ②′既にBuilder IDを所持している場合 Already have AWS Builder ID? Sign in は、ログインする



メンバー 招待の受け入れ手順 (2/2)

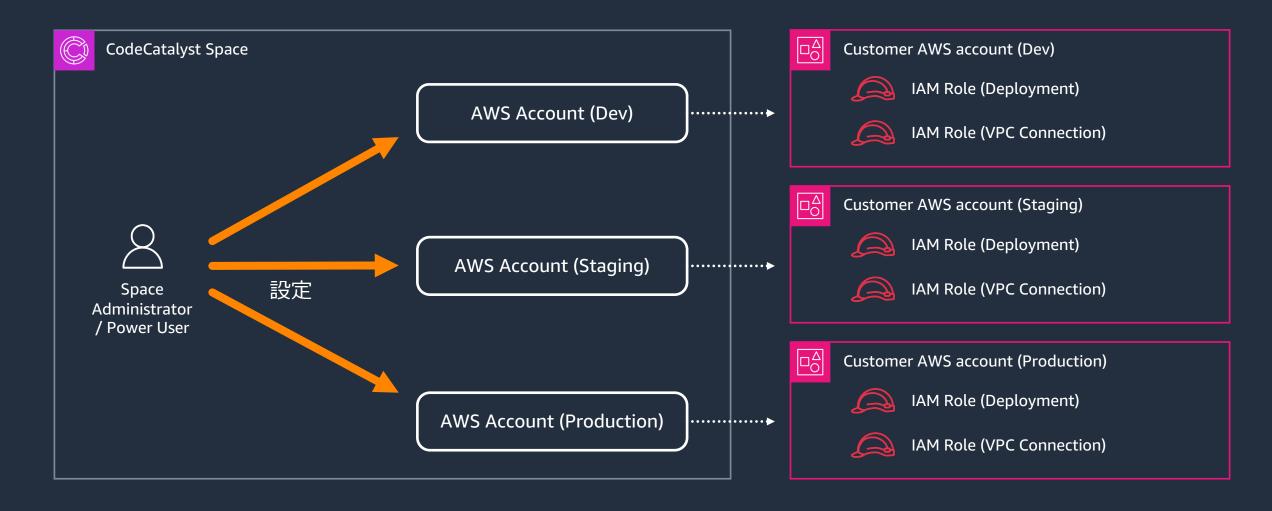




AWS アカウント/ IAM Role の管理



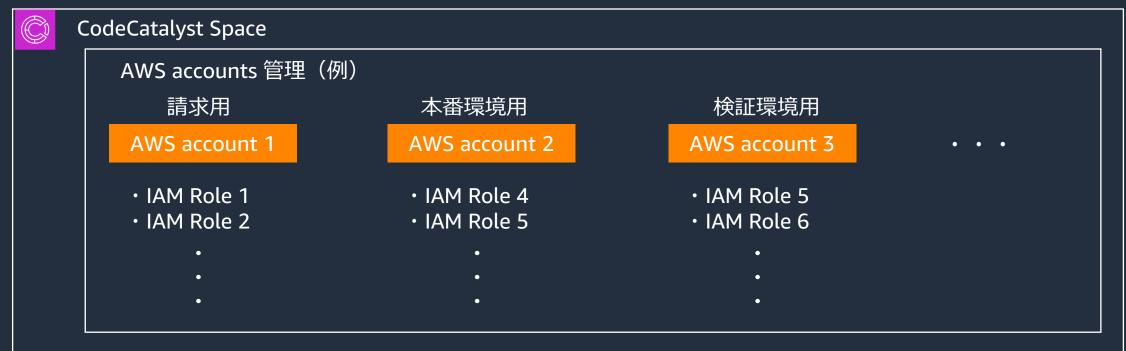
Space と AWS アカウントとの関係





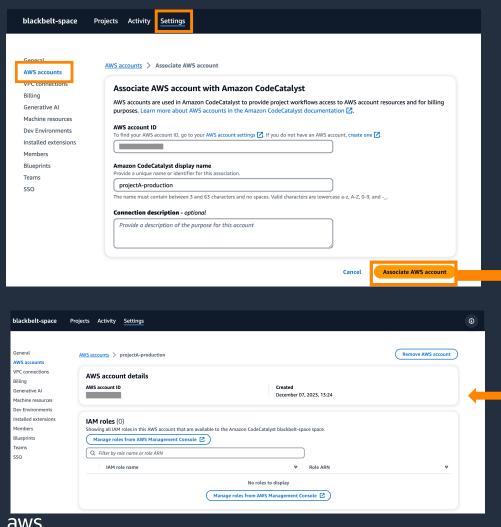
AWS アカウントの管理

- Space 内で利用する AWS アカウントの管理
 - 請求用アカウント、デプロイ用アカウント、VPC connection など
- AWS アカウント に、1 つ以上の IAM Role を設定
 - 設定された IAM Role で AWS リソースへアクセス

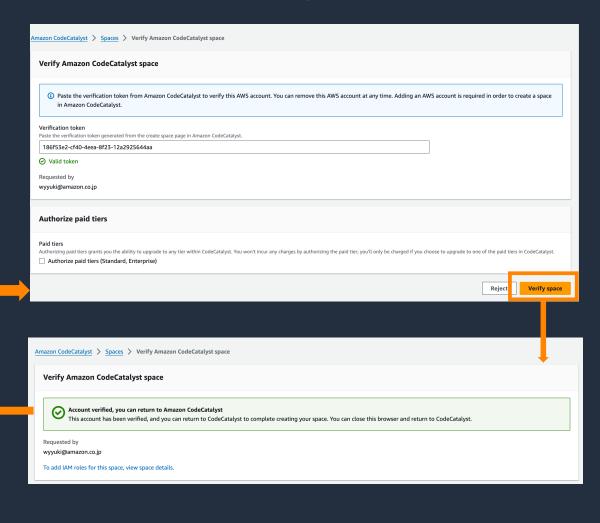


AWS アカウントの追加

CodeCatalyst Space

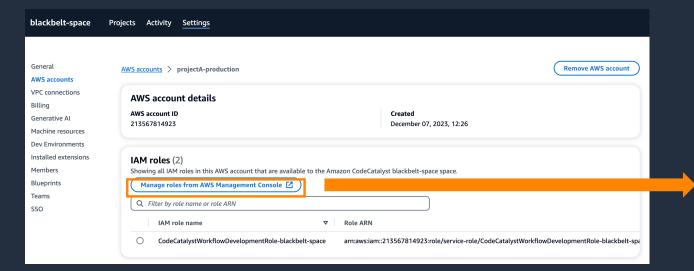


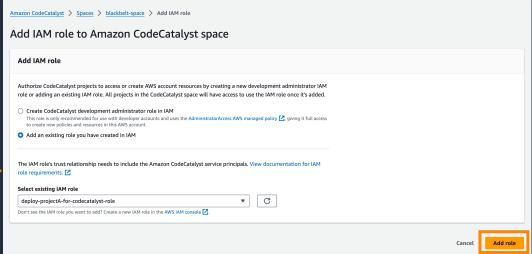
AWS アカウントの マネジメントコンソール



AWS アカウントの IAM Role の追加

- AWS アカウント のリソースにアクセスするための権限となる
 - IAM Role の Service Principal に CodeCatalyst を設定する必要がある(後述)
 - ここで設定した IAM Role を Workflow で選択的に利用する





※ Workflow の詳細については Black Belt Amazon Codecatalyst シリーズ Workflow 編参照



IAM Role の設定例

CodeCatalyst の Space からの利用を許可する IAM Role 信頼ポリシーの例

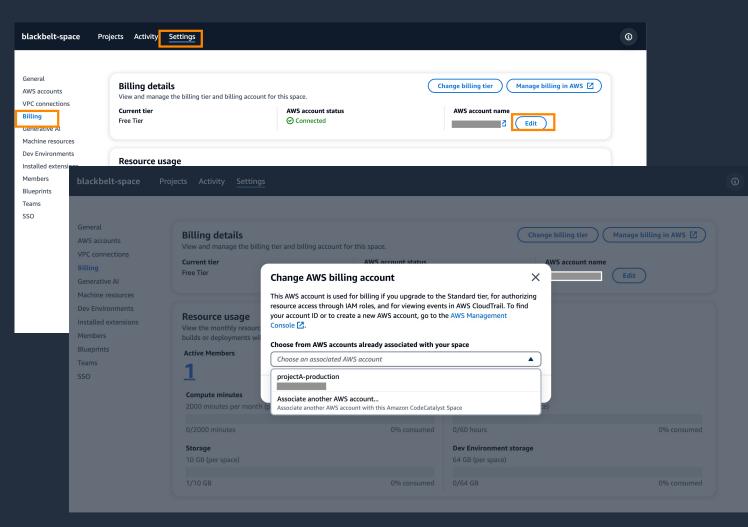
```
"Version": "2012-10-17",
   "Statement": [
           "Effect": "Allow"
                                                                           CodeCatalyst の Service Principal を指定
            "Principal": {
               "Service": [
                   "codecatalyst-runner.amazonaws.com",
                   "codecatalyst.amazonaws.com"
                                                                           特定の Space のすべての Project からの利用を許可
           "Action": "sts:AssumeRole":
           "Condition": {
               "ArnLike": {
                   "aws:SourceArn": "arn:aws:codecatalyst:::space/<spaceId>/project/*"
"Condition": {
               "StringEquals": {
                                                                                                       特定の Project に制限
                   "aws:SourceArn": "arn:aws:codecatalyst:::space/<spaceId>/project/<projectId>"
                                                                                                       する場合の例
```

https://docs.aws.amazon.com/codecatalyst/latest/userguide/trust-model.html https://docs.aws.amazon.com/codecatalyst/latest/userguide/security-iam.html



Billing の設定

- CodeCatalyst の利用に よって発生する料金の請 求先 AWS アカウントの 変更、管理
- CodeCatalyst billing tiers の変更、管理
 - Free、Standard、Enterprise



※ Tiers の詳細については Black Belt Amazon Codecatalyst シリーズ Overview 編参照



クオータ



クォータ

項目	制限
AWS リージョンごとのユーザーあたりのアクティブ Space 数	5
1 ユーザー/1 か月/1 リージョンあたりのスペース作成数	5
Space 詳細(オプション)	長さは 0 ~ 200 文字。 文字、数字、スペース、ピリオド、アンダースコア、カンマ、 ダッシュ、および次の特殊文字の任意の組み合わせを使用可 能。 ?& \$% + =/\;:\n\ t\
Space 名	CodeCatalyst 全体で一意である必要がある。 削除したスペースの名前を再使用することはできない。 長さは 3 \sim 63 文字。また、先頭は英数字でなければならない。文字、数字、ピリオド、アンダースコア、ダッシュを自由に組み合わせて使用可能。 次の文字を含めることはできない。 !?@#\$%^&*()+={}[] /\$>< \sim ^'";:





Thank you!